

GMOの社会学 2

論点は何か

農村社会・社会学特殊研究

第12話

秋津元輝(農学研究科)

推進側の根拠①

食料問題

- 食料問題解決への貢献
 - 超多収農作物、低温・乾燥・塩害などの不良環境や病虫害に強い農作物の開発
- 消費者ニーズに沿った農林水産物・食品の生産
 - 栄養成分に富む農作物など

(三瀬、2001、<http://www.no-gmo.org/gmguide/gmguide.htm>参照)

推進側の根拠②

環境・福祉問題＝第3世代

- 環境・資源問題の解決への貢献
 - 環境浄化微生物、病虫害抵抗性を付与することによる農薬使用量の減少、生物エネルギー等の開発、など
- 健康によい作物の提供
 - 機能性成分(抗ガン効果等)をもつ農産物、食べる医薬品の生産、など

反対側の根拠①

技術的な問題

- 遺伝子セットが、宿主の染色体のどこに入るか、あるいはいくつ入るかは、不確定
- 手法と正確度について
 - アグロバクテリウム法
 - パーティクルガン法

安全性問題

- 食品としての安全性・・・自己決定
 - 1998年8月、英国のパズタイ博士による実験
 - 抗生物質抵抗性マーカ問題、など
- 作物としての安全性・・・環境
 - オオカバマダラ(幼虫)の死亡
 - 抵抗性問題
- 安全性審査について(2001.4より義務化)
 - カルタヘナ法、2004年2月から施行。

反対側の根拠③

政治経済の問題

- 企業による「種子」の独占
- 地球の食料問題に平等に対応できるか
- 遺伝子資源と南北問題

論争＝批判のしかた

- 外在的批判と内在的批判
 - 議論の例
 - 「素人は知識がない」
 - 「素人は何を安全と考えるか」
 - 「自然/神の冒とくだ」
 - 知識の伝達システムの問題
- 内在的批判の手がかりとしてのリスク

リスク

- リスクの対義語
 - リターンまたはプロフィット（利益）
- 現象としてのリスク
 - ハザード＝危険とその起こる確率の積
 - たとえば降水確率
- 行為としてのリスク
 - 素人による
 - 傘を持って出るかどうか

信賴

- 専門家と素人をつなぐもの
 - たとえば、患者による医師への信賴
 - 盲目的信賴の崩壊
- 保護者としての専門家から情報提供者としての専門家システムへ
 - 組み換え表示の義務化もそのひとつ

実質的同等性

- 食品のリスク評価は困難
 - その理由
- 実質的同等性という便法
- 実質的同等性は安全性評価そのものではない＝科学的なリスク評価ではない
 - 昔から食べてきたという社会の経験への信頼

リスク化への困難

- 科学的なリスク評価が困難
 - 専門家がリスクを伴う行為の責任を明確にできない
- 素人に選択の自由があるか
 - 表示の不完全
- 新機能型組み換え食品になると、リスクーベネフィット関係がはっきりしてくる

予防原則というしくみ

- 被害の程度が大きかったり取り返しがつかない場合に、考えられるリスクの原因を最小にすること
 - 判断は政治的でもある
- 決定のためのリスク・コミュニケーション

参考文献

- 三瀬勝利『遺伝子組み換え食品の「リスク」』NHKブックス、2001
- 大塚善樹『遺伝子組換え作物-大論争・何が問題なのか』明石書店、2001